三井住友信託銀行

https://www.smtb.jp/



《将来に向けた取組方針》

水、大気、土、そこで育まれる海や陸の動植物といった自然資本は無尽蔵ではないため、企業は事業活動の基盤を置く国内、原料・部品調達の多くを依拠する海外の自然資本に対する依存と影響を的確に把握し、適切に管理する必要があります。当グループは金融の視点からその方法論の確立に貢献するとともに、海外からの調達、事業やプロジェクトの継続に重大な影響を与える自然資本リスクを洗い出し、ESGの視点から投融資プロセスへ組み入れる検討を進めてきました。また、陸域の自然資本の基盤は土地であることを踏まえ、山間部から都市部に至るまでそのエリアに即した生態系の回復に努め、エコロジカル・ネットワークの形成に貢献していきます。

〈ポジティブ・インパクト・ファイナンス〉

三井住友トラスト・グループは、顧客との関係だけではなく、顧客と社会(周囲)との関わり(インパクト)を考慮し、それを最適なものにすることを支援し持続可能な社会への移行(トランジション)に貢献するポジティブ・インパクト・ファイナンスに取り組んでいます。

2019年3月、三井住友信託銀行は不二製油グループ本社様に対し資金使途を特定しない融資としては世界初となるポジティブ・インパクト・ファイナンス契約を締結しました。本契約において、同社のサプライチェーンの上流、中流、下流のそれぞれにおいて、ポジティブインパクトの最大化とネガティブインパクトの最小化についての目標を設定し、それらのコミットメントを融資契約に織り込みました。

生物多様性に関しては、主原料のサステナブル調達におけるNDPE(森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ)を目的としたサプライチェーン改善活動およびRSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)等の取り組みを管理すべきインパクトとして特定しています。



〈岡山県西粟倉村における森林信託〉

三井住友信託銀行では岡山県西粟倉村(令和元年SDGs未来都市に選定)において森林信託事業の取り組みを開始しています。

岡山県西栗倉村は面積の95%が森林であり、そのうち84%が人工林です。約50年前に植えられた木を立派な100年の森に育て上げようと村ぐるみで挑戦を続けています。森林信託事業はこの「百年の森林構想」を信託スキームを用いてサポートしようという信託銀行ならではのソリューション提案です。





〈社会に向けたメッセージ〉 生物多様性と生態系は人類の生存には欠かせない自然資本の根本要素です。当社は信託銀行の持つ多様な機能を活用し、その価値の保全に最善を尽くしていきます。